

杉並和泉学園 中学部

多様な価値観と出会い、自分の考えを広げる場所

今の学校図書館

●小中一貫教育校 小中学生共有図書館

6教室分の館内両端にそれぞれ閲覧席があり、同時に授業も可能。中央エリアの共有書架に学習資料を置くことで、活用できる資料の幅も広がり、個々の成長に合った利用が可能。スローガン【多様な価値観と出会い、自分の考えを広げる場所】を具現化するため、さまざまな取組を行っている。(右「特色ある取組」)



写真手前: 中学部、中央: 共有書架、奥: 小学部

学校図書館の運営

●小中連携

- ・小中9年間を見通した「学校図書館全体計画」
- ・合同図書委員会、図書館利用法や蔵書構築など、小中司書教諭と学校司書が情報を共有。

●学校図書館から情報提供

- ・「IZUMI 図書館通信」月1回発行
新着本やおすすめ本紹介、図書館活用授業の報告、イベント案内等。
- ・「教職員用学校図書館便り」年3～4回発行。
学校図書館の活動を報告し課題を共有。
- ・ロイロ「中学部図書」に教科、テーマに沿ったリストや調べ学習、著作権等に関する情報を随時提供。
- ・昇降口掲示板、廊下、階段など校内に案内掲示。

1年間の主な活動

- ・全学年図書館オリエンテーション(4月)
- ・授業支援(通年)
- ・ブックフェア(秋1回)
- ・小中合同図書委員会でイベント企画。
- ・モジュール読書(通年 週2回)

特色ある取組

●ブックフェア 本を知り、互いを知る

国語科で全生徒による「おすすめ本発表」を実施しブックフェアに繋げている。発表後は館内に展示された互いの紹介本を読み読書の幅も広がる。また図書委員企画の放送朗読、セルフツアー、コラボ給食、しおり作成など楽しく参加できる啓発イベントとして定着。



●多様なジャンルの本に触れる

オリエンテーション、便り、展示、教科等で意識的に多様な分野の本を紹介。9年生が国語の授業で毎年作る新書ポップの展示も知的好奇心を生み出す動機づけになり、良い刺激となる。

●多様な特性に寄り添う

- ①小中合同図書委員会で館内を点検。車椅子の目録は？読みやすい文字か？など誰もが不便を感じない図書館。
- ②LLブック、大活字本、DAISY図書など配慮が必要な生徒のための「りんごの棚」を小中共有設置。
- ③海外にルーツをもつ生徒が増える中、生徒・先生向け関連図書や洋書を幅広く所蔵。
- ④図書館での個別学習支援授業では様々な資料を活用し小中とも定着。

これからの学校図書館

- ①資料や空間など小中一貫校の特色を活かし、多様な生徒への配慮を当たり前に行える図書館に。「個」に応じた選書や環境整備などの小さな支援は、他の「個」への支援につながり、結果的に全生徒へと広がっていく。
- ②探究学習に欠かせない各ツールの使い方、著作権に関する理解向上のための支援を継続する。
- ③活用状況を可視化し横断的図書館活用を目指す。

